

平成27年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

開催日時	平成28年2月15日（月） 午後2時
閉会日時	平成28年2月15日（月） 午後3時15分
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席委員	森本 典子 会長 （阪南市子ども文庫連絡会代表）
	門野 沙奈恵 副会長（生涯学習部学校教育課代表）
	西野 豊子 委員 （市民公募）
	谷本 美由貴 委員 （阪南市みんなの図書館を考える会代表）
	下林 奈央 委員 （中学校代表）
	辻野 浩二 委員 （小学校代表）
	寺田 有佳利 委員 （幼稚園代表）
	南 智珠子 委員 （保育所代表）
	後藤 陽子 委員 （健康部健康増進課代表）
	竹中 宏子 委員 （生涯学習部生涯学習推進室代表）
加藤 靖子 委員 （生涯学習部図書館代表）	
事務局出席者	井上主幹、中山総括主事

図書館長挨拶

委員自己紹介（委員からの活動報告）

- C委員 31年子ども文庫を続けてきた。今では初期に文庫に通った子どもが親になり、子どもを連れてきてくれている。
- D委員 つくし文庫では、ビッグブック（大型絵本）や紙芝居を子ども同士で読みあっている。読みきかせるためには、自身で内容を理解する必要があるため、子どもたちの読書力が高まってきていると感じている。
- F委員 小学校の放送委員会が、給食の時間の放送で、昔話を読んでいるのが好評である。
- G委員 以前担任した3歳児のクラスでは、ちょっとした時間に絵本を楽しめるよう、市立図書館の団体貸出を利用して、教室に絵本を常に置いていた。するとその子たちは、先生の真似をして読みきかせをしたり、字は読めないながらも、絵だけでオリジナルストーリーを展開したりと、絵本好きのクラスになった。
- H委員 担任をしている0歳児は、「だるまさん」シリーズや、「おめん」シリーズをととても喜んでいる。
- I委員 日本小児科学会の「乳幼児にテレビ・ビデオを長時間みせないように」という提言を、母親に紹介している。今後はその時間で絵本を読むように促していきたい。

- J委員 | この会議や子ども館の説明会等に参加すると、子どもの育ちを見守る目がたくさんあることを実感する。
- B委員 | 学校図書館の図書管理システムが新しくなり、今後は子ども自身で検索できる画面も用意できる予定である。学校図書館司書の研修は年10回開催しており、先日行われた大阪府のフォーラムには、学校図書館専任司書全員で参加した。
- A委員 | 大阪府の子ども文庫連絡会に参加しており、他市の様子をよく耳にする中で、阪南市のことを思うと、市立図書館を核にして学校図書館、子ども文庫や保健センターとの連携がとてうまく行われていると感じている。
- B委員 | 小学校2校でフルタイムの学校図書館専任司書を配置でき、いつでも開いている図書室になったことで、5分休憩でも子どもが図書室に来るようになった。また、貸出冊数も増えた。
中学生は、家でも忙しく、本を読む時間がないようだ。読みきかせの取り組みをしている学校もある。また、くつろぎスペースを設け、息抜きのできる場所、集団に入れない子どもの居場所となっている学校もある。くつろぎスペースは全校に設けたいが、スペースの都合でできていない。
- K委員 | 読書は映像やゲームに比べると地味だが、自分の人生以外の人生を知ることができる。これは生きていく上での強みになる。子どもたちが本を読む力を身に付けられるよう、皆様と一緒に考えていきたい。

案件1 | 今年度の子ども読書活動推進の取り組みについて
事務局 | (読みメン講演会&講座について、パワーポイントを用いて説明)

案件2 | 事務連絡
事務局 | 今年度の推進状況の報告の締め切りは3月7日である。
来年度1回目の会議は6月ごろ開催予定である。

終了